

犬の催吐処置におけるトラネキサム酸と アポモルヒネの比較

谷 章禎[†] 喜多川麻美 塗木貴臣

(一社)東京城南地域獣医療推進協会 TRVA 動物医療センター
(〒158-0081 世田谷区深沢 8-19-12 泉美ビル 2F)

(2024年3月20日受付・2024年7月18日受理・2024年10月31日公開)



本文はこちら
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jvma/77/10/77_e161/_article/-char/ja

要 約

犬はさまざまな中毒物質や異物を誤食することがあり、その対処法の1つとして催吐処置が選択される。催吐処置には本邦ではトラネキサム酸が用いられることが多いが、海外ではアポモルヒネが一般的である。本研究では、トラネキサム酸とアポモルヒネの催吐処置における有用性の比較を目的に回顧的研究を行った。その結果、アポモルヒネ投与群ではトラネキサム酸投与群と比較し、嘔吐率、誤食物の排泄率が有意に高いことが明らかになった。また副作用については、トラネキサム酸群の0.9%で痙攣発作が認められ抗てんかん薬などの投与が必要となったのに対し、アポモルヒネ群では異物排泄後も嘔吐が続く症例が多いことが示され処置後の悪心及び嘔吐の遷延には注意が必要と思われた。以上より、アポモルヒネはトラネキサム酸と同様に、犬の催吐処置において有用な薬剤である可能性が考えられた。

—キーワード：アポモルヒネ，犬，催吐剤，トラネキサム酸。